

関ヶ谷自治会ホームページではカラーでご覧になれます

## 2015年度(第38回)

### 関ヶ谷自治会 定期総会を終えて

関ヶ谷自治会長 田崎幸雄

第38回の総会でした。関ヶ谷自治会も、38年間もの長い歴史と文化を背景に育みながら此処まで来たのだと云う深い思いに駆られます。

世の中は今や、少子高齢化の時代「真只中」です。関ヶ谷は38年前を前後にして新興住宅として一気に誕生した経緯があることから、今では他には類を見ない程の高齢化の進行した地域であることが大きな特徴であり現実です。

顕著に進行する高齢化、一人暮らし、自治会員の減少、空き家の増加など、これらの現実の問題点を正しく見据え、如何にしたら皆が安全安心に暮らせる地域に出来るのか？

防災体制の強化、これは、自治会の重点施策の第一です。自治会としては、2年前から、自治会防災部と防災ボランティアグループとの連携強化、一体化体制の構築に向け取組んで来ましたが、お陰様で、防災V.Gの理解と協力も得られ、

一昨年度は「自治会防災指針」を策定、昨年度は「自治会災害対策本部設置要綱」を策定することが出来ました。そしてまた、自治会防災体制の更なる強化を図りたいとの思いから、昨年7月からは、新たな会議体となる「防災会議」を立上げ、組織・運営・予算の面でも自治会防災部と防災V.Gとの連携、一体化を、更に強化することが出来ました。

今年度は、この連携、一体化を基に、更なる活動の具体化を展開して行きます。

●防災V.Gを主体にした「防災スキルチーム」の新体制構築による防災体制の強化。  
●急速に進む高齢化に対応した災害時要援護者に対する支援体制の構築、推進強化。  
●防災V.Gより、自治会防災部・部長として、人員を派遣。

これらの新たな展開を図りながら、地域の皆さんの安全安心な暮らしを守って行きたい。  
今年度も、防災V.G皆様の高一層のご理解とご協力を切にお願致します。

### 住民自ら活用する消火器訓練

防火スキルチーム 萩尾

今年2月には30名近くの人が訓練に参加されました。一度経験すれば操作は簡単で楽です。

消火器が使う消火栓を利用します。自宅を火災から守るためには是非参加して下さい。参加申込 自治会館に地区番号と名前を申しこんでください。当日現場でも受け付けます。

スタンドパイプ消火器の導入が決定し、操作訓練を金沢消防署の支援で実施します。(訓練は7月と10月以降今年度3回実施)

実施日時 5月19日 10時30分～12時  
実施場所 草舞台公園 44プロック44-13の消火栓新田2か所を利用 公園内から遊歩道方向に放水する。

1. スタンドパイプを消火栓までの運搬。
2. 消火栓を開ける。
3. スタンドパイプの接続。
4. 放水
5. 収納

2, 3, 4, を繰り返して行う。1, 5, は一回限り参加装備 防水靴、防水上着濡れても良いもの) 参加組 1地区から37地区の各地区内3人程度になる。

放水のみ体験は1人でも可。  
地区内3人組を作ってください。  
受付は事前に先着順に受け付けます。  
組は突然に作ることも大切です。  
当日その場でも参加受け付けます。

スタンドパイプとは  
住宅内に約1000円間隔で設置してある消火栓を利用して放水消火する消火器具です。消火栓に接続するスタンドパイプは50cm長のホース(3本接続で60cm)と筒先(放水器)で構成されています。

これを格納・運搬するキャリアーがあります。毎分100リットル以上の水を10メートル先まで放水できます。

### スタンドパイプ消火器



新タイプ 旧タイプ  
自宅最寄りの消火栓はどちら？

### 防火減災の切り札

#### 感震ブレイカーを設置しよう

関東大震災では10万人の死者の9割近くが火災で亡くなったとされる。阪神大震災の時木密地城長田区で火災発生139件内電気火災85件、東日本大震災でも163件の火災発生内電気火災108件両者とも60%以上が電気火災ということが判明している。東日本では108件中の21件が停電復旧後であった。

感震ブレイカーは設定値以上の揺れを感じたときブレイカーやコンセント接続の電気を切るものです。これにより電気火災を防ぐ大きな効果があります。

#### 感震ブレイカーには3タイプあります。

- ①簡易タイプ(3千円前後)重りの落下や感震センサーと連動したバネの作用で分電盤のノブに作用し住宅内すべての電気を止めます。
- ②コンセントタイプ(1か所5千円程度)
- ③コンセントに内蔵した感震センサーが揺れを感知しコンセントからの電気を止めます。

感知しコンセントからの電気を止めます。

③分電盤タイプ(5万～8万円)分電盤に内蔵したまたは接続した感震センサーが揺れを感知し住宅内すべての電気を止めます。このタイプは工事依頼が必要です。

問い合わせ・横浜市総務局危機管理課  
電話 045・621・2011



7:2:1  
自助:共助:公助

### 食と防災 第一回(今回は常備食品)

大地震が起きたらどうなるの？  
大地震が起きたら、想像するだけで怖くなりますよね。では、ふだん、私たちはどんなことを考え、おけばいいでしょうか。また、何を準備しておけばいいでしょうか。

#### ライフライン復旧の目安

電気3日 通信6日 上下水道30日 ガス60日

さて冷蔵庫を見てみましょう。地震のあとはこうなります。

冷蔵庫は電気が止まればただの箱



◇冷凍品を冷蔵庫へ移す(冷凍品は保冷材の代わりになります)

◇水は即に移す(貴重な飲料水です)

◇肉・魚は火を通す

◇要冷蔵品・冷凍品は、とにかく早く十分に加熱して食べる

常備品は、いざという時の大切な食料になります。ふだん買い置きしている食品の数を種類を増やすなど工夫していきましょう。又賞味期限もしっかり確認しましょう。  
(母子「食と防災」より抜粋)

# 防災スキルチーム誕生

岡ヶ谷地区の自治会員の皆様、ぜひ防災VGへ加入され「防災スキルチーム」でメンバーと一緒に活動しませんか。  
 以下各「防災スキルチーム」①防火チーム ②情報・通信・電気チーム  
 ③医療・介護チーム ④食糧・物資チーム ⑤防災資機材取扱チーム の活動をご紹介します。

## ◆防火チームの活動

リーダー 萩尾

住居者の火災発生予防と初期消火の常日頃の準備の支援を行い、災害時に役立つことを目指す。火災規模が初期消火を超える状態になったときにプロット、または地区（近隣）で協力して燃焼を防ぐ体制作りと訓練を行う。火災発生に伴い発生通報（二番）と火災発生時の広域避難場所への避難が、できるだけ自衛に行えるように広報と時には避難訓練を行う。

防火チームの活動は、防火チームは防火知識と技術（方法）習得の先駆けとなり、住居者に平常時から支援を行う。

スキル要員は現状3名であるが3地区各2名以上になるよう要員獲得も行う。

今年度実施予定  
 5月19日2回目スタンバイ消火訓練を実施する。7月と10月以降も今年度計3回実施。

6月、消防署による防火チームの講習会を自治会館で実施する。

（注）消火栓を利用する訓練は常に消防署と共同で行う。同時に消防団とも協力する。

また必要に応じて技術指導も受ける。

## ◆情報・通信・電気チームの活動

リーダー 大橋

① 概要  
 災害発生時に、インフラが大きなダメージを受けると思われます。よって長時間にわたり停電した時に自治会災害対策本部の①夜間照明の確保、②テレビ、ラジオ、インターネットなどを通じた災害に関する情報の入手方法を研究・検討し、それに対応出来る活動をしていきます。

② 今後の課題とその対応  
 エンジン式発電機（6台所有）を中心とした現体制で十分対応可能と考えられますが、更に以下について検討を進めて強化を図ります。

- ガソリンやガソリンの備蓄量（法的制限、想定すべき停電の期間）
- エンジン式発電機の日常の保守、修理の人的確保
- 自治会災害対策本部として必要な機器の確保
- 地域防災拠点（小学校）の現状とその対応
- エンジン式発電機以外の方面の総合的検討

インバスター、ソーラー発電機などの高価なものも含め全体的に整備・検討

## ◆医療・介護チームの活動

リーダー 木部 出輝

（備えあれば憂いなし）災害発生時に自分の意思決定で迅速に動けるボランティアが財産であると、大震災経験の医師が話されています。準備をどれだけ行っているか十分という事はありません。

災害医療・介護は、「スピード」が勝負です。災害時の非常時対応の難雑さに対する「スピード」確保の切り札は何を優先するかとともに何を無視するか、

災害は、発生直後だけでなく、数週間から数か月の長期間にわたって、個人のみならず被災地生活に影響を及ぼし、健康障害をもたらすことにもなります。医療という特殊な分野のために個々のスキルを尚一層必要となります。

医療・介護に関わった事のある方、  
 “どんな場面であっても、生命と健康な生活への回復を支援してみませんか？”

活動内容はこれから検討していきますが、例として挙げてみました。

① 規模や岡ヶ谷地区の特性に沿って、それぞれ有効性のある災害マニュアル（医療版）を作成し、時間的経過で人々の心身の状況・精神面等をケアできないか？  
 ② 災害現場で活かせるアクションカードを作ってみては？

（災害時に限られた人員と災害資源で、できるだけ効率よく緊急対応ができるように、個々に対する具体的な指示がきこまれている。）

③ 非常時を想定しての救護所設置・トリアージ等を行い、啓発活動。

④ 感染対策など

チーム編成は、募集・アンケート・推薦によって募ります。医療・介護資格を持たずとも、医療・介護経験があったり、情報伝達で活動していただける方。

## ◆食糧・物資チームの活動

リーダー 伊泉

（1）州内唯一の大型スーパーが被害に遭われ、日常の生活（食事・普段の生活等）が極めて困難になった方へ食事・食糧提供の支援活動をする。

② 支援対象者（岡ヶ谷地区の方）を優先する。

但し、自治会災害対策本部の要請によっては

地域防災の支援をする。

① 炊き出しなど非常時に備え、用具

② 防災・減災のために非常時、防災に役立つ情報などの提供し防災意識を高める。

③ 自助の「備え」-「我が家の防災備蓄庫」を推進する啓発活動やサポート活動をする。

（2）チーム編成（炊き出し等の食糧用）

④ 物資調達・配達班 ⑤ 家事等のサポート班など。

◆活動内容

非常時	平常時
・ 支援対象者①岡ヶ谷地区にお住まいで家屋の被害が軽微で自宅生活が可能の方②要援護者・災害援護者でインフラ等の被害で食事等がとれない方への支援。	・ 災害時に備え「我が家の防災備蓄庫」創りの啓発をする（「地域防災備蓄庫」の備蓄品などに出来るだけ頼らず、自分の身は自分で守る「自助」）
・ 炊き出し等による食事の提供や食事作りのサポート。	・ 自治会の食糧等の備蓄を強化。
・ 生活必需品の調達と提供-物資の調達は被害が軽微で「我が家の防災備蓄庫」から抽出可能な方から抽出後、被害者へ提供。（互近助）	・ よって「備え」カード品目の実施・推進を図る。そのための情報提供や相談サポート。
・ 災害時、役立つ食事作り（簡易・栄養バランス）などの情報を提供。	・ 民生委員の協力を得て「要援護者宅」へ伺い「お節介」活動をする。（「備え」カードのチェックなど）
・ 女性の視点での支援活動。	・ 「防災だより」で話々の啓発活動。
	・ 女性の視点からの防災・減災を考える。

◆防災資機材取扱チームの活動  
 リーダー 笹岡  
 横浜市では、市内各地の地域防災拠点に防災資機材を備えています。災害の時にこれらの防災資機材を

有効活用する為、横浜市はこれらの取扱方法の講習会を開催し、習得者に「横浜防災ライセンス証」を交付しています。

講習の内容は下記の通りです。

生活資機材・仮設トイレ、移動式炊飯器、応急給水栓、  
 災害用地下給水タンク  
 救助資機材・エンジンカッター、発電機、投光器、  
 レスキュージャッキ、工具類

先ずはライセンス証保持者の方はご登録下さい。

また、消防団・防災関係従事者等で上記の講習内容を習得なさった方も、是非登録をお願いします。

登録を頂いた方々で防災資機材取扱ライセンスチームを立ち上げます。

① チームの活動・目的  
 平常時は上記資機材の取り扱い等の技術の向上および普及

② 災害時には、資機材を使った防災活動を目指し、自治会が所有すべき必要最小限の資機材を精査し、順次充実を図っていく。

③ 岡ヶ谷に在住の方を対象とするが、自治会の要請によって地域防災拠点での活動・支援も検討する。

**防災VGの活動区分の再登録のためのアンケートを実施いたします！**  
 防災VGを立ち上げて5年目に入りました。27年度防災VG総会において防災VGの活動区分の見直しを提案し、承認を再得しました。つきましてはメンバー皆様に活動区分再登録のアンケートを実施いたします。望まれる「防災スキルチーム」に登録をお願いいたします。「防災スキルチーム」と言う呼称は何か高い技能を必要とするかのように思われるかもしれませんが、大災害に備えて、防災・減災に向けて私たちが出来ることを工夫・協力しながら活動していこうと言うものです。登録されるに当たっては各スキルチームの基本的な活動が記されておりますのでご覧ください。

防災今後の活動予定●スタンバイ消火訓練：5月19日（火）草舞台公園、7月22日（水）奥座か南丸公園●防火講習（講師：釜利谷消防所）7月●防災だより7月15日発行●自治会防災訓練 9月●救急講習（講師：釜利谷消防所）10月●防災会議、防災ボランティア役員会 毎月開催